

第12回 会長の時間 米山学友会につきまして H28.10.20

10月13日に行われました、田原栄一ガバナーの公式訪問が無事終了しました。例会後のガバナー公式フォーラムで、ガバナーから100点満点を頂きましたのは、理事、役員、委員長を初めとして会員皆様のおかげです。ありがとうございました。来る10月30日は広島で地区大会がありますので、また心を引き締めて参りたいと思います。

さて、10月は米山月間で10月6日に米山記念奨学金事業についてお話ししましたが、今日は、米山奨学生の曹 伴鵬 (ツウ ハツウ) 君が来てくれていますので、前回触れていない米山学友会についてお話しします。

米山学友会とは、ご存じのように、米山学友(いわゆる奨学期間を終了した元奨学生)と現役奨学生によって組織されている会のことです。世代と国境を越えた交流の場となっています。学友会は、日本では33団体(34ロータリー地区)、海外では7カ所にあります。すなわち 韓国学友会・台湾学友会(北部・中部・南部の3部構成) 中国学友会(上海・華北の2部構成) タイ学友会・ネパール学友会・モンゴル・スリランカ学友会の7団体です。それぞれ地域のロータリー・クラブと連携しながら、自主的に活動を行っています。奨学期間を終了した学友は、米山奨学会で把握している住所をもとに、各地区の学友会に自動的に登録されます。2つまでの学友会に登録が可能で、希望する地区への登録も可能です。

2016年度の米山記念奨学生は、750名いますが、この内学部課程 250人 修士課程 287人 博士課程 177人 地区奨励 15人 クラブ支援 6人などとなっています。750名の国別内訳は、前回も触れましたが、中国 301人で40.1%、韓国 114人で15.2%、ベトナムが94人で12.5%、以下台湾、モンゴル、マレーシアの順です。

さて、ロータリー米山記念奨学会が発行した豆辞典(2016-2017年度)によりますと、ロータリアンになった学友は現在220人で、台湾77人韓国64人、中国44人の順です。米山学友及び学友会からの寄付金は2732万円余りで、これとは別に東日本大震災への義援金として760万円が寄せられました。また、学友を中心に発足したクラブとして台北東海RC(台湾3480地区:日本語)・台中文心RC(3460地区中国語:日本語可)・東京米山RC(2750地区)・東京米山ロータリーEクラブ2750、さいたま大空RC(2770地区)があります。特に台湾での学友会の活動は積極的で、2009年に日本人若手研究者奨学金を設立し今までに16名を支援して来ました。

2016-2017 年度のよねやま親善大使として 3 名が決定しました。まず、スリランカのステッタ・グナセカラさんは、母国で日本語学校を設立し、自ら校長となり、日本語や日本文化を教えて、これまでに 69 人の日本への留学を支援しています。さらに、日本の外資系生命保険会社に勤務する中国出身のウェイさんは、愛知ロータリーE クラブの創立会員で、ロータリー財団委員長と米山委員長を務めていて、堪能な語学力と行動力で海外クラブにも米山を発信しています。3 人目の韓国のキムボクハン氏は埼玉県内で知的障害者の自立支援と手織り伝統技術の継承に当たって NPO 法人を立ち上げています。自ら幼少時にポリオによる麻痺に罹患しましたが、障害児教育を学ぶために来日し、韓国の大臣賞を贈られた実績があります。

地区の米山奨学生の枠を決めるにあたり、まずは寄付金の収入予測に基づき全体の総数を決めます。2016 年度は 750 人でしたが、2017 年は 780 人となり、2710 地区は、来年度 2 名増えて 22 名となります。奨学生を決定するにあたり、地区選考委員会が指定校を毎年決めております。指定校の学内選考があった上で、地区での書類選考があります。さらに候補者は、地区のロータリアンの面接選考を受けて選抜され、高い競争率で合格者が決定します。このことからもわが米山奨学生の曹 伴鵬君がどれだけ優秀な学生であるかがわかると思います。なお、寄付が多い地区ほどたくさんの奨学生が採用できますので、少しでも多くのご寄付をお願い致します。

本日は、米山学友会についてお話ししました。